

## 2017 年度日本オセアニア学会関東地区研究例会の報告

関東地区研究例会幹事 倉光ミナ子

2017 年 11 月 25 日（土）に、東京医科大学にて 2017 年度の関東地区研究例会が開催され、2 人の会員が 30 年以上にわたるフィールドワークに基づいた集大成としての博士論文の内容を報告しました。

1 つめの発表は山本真鳥会長による「グローバル化する互酬性—サモア世界の儀礼材と現金の循環」で、コメンテーターは春日直樹会員でした。山本会長は 1979 年からのサモア諸島とサモア移民コミュニティにおけるフィールドワークに基づいて、とくに女性財としての Fine mat の変遷に注目しながらサモアの儀礼交換について論じました。それに対し、春日会員はモースの贈与論を取り上げ、なぜそれを儀礼交換と呼ぶのかという問いかけなどがなされました。

2 つめの発表は熊谷圭知会員による「移動・開発・場所とフィールドワーカー—パプアニューギニアの動態地誌」で、コメンテーターは吉岡政徳会員（紙面による）と川崎一平会員でした。熊谷会員は 37 年にわたるパプアニューギニア(PNG)での 3 つの異なるフィールドでの研究をフィールドワークと場所の関係に焦点を当てて論じました。吉岡会員からは場所論、フィールドワーク論、そしてフィールドへの還元に関してコメントがあり、川崎会員からも自らの PNG での経験に基づいたフィールドとのかかわり方、フィールドへの還元、土地の問題や国境を越えるヒトの移動という点から問いかけがなされました。

最後に、全体で改めて、人類学者と開発との関わり方、フィールドへの還元、そして贈与と交換といったテーマなどについて改めて議論がなされました。こうして、発表者・コメンテーターを含む 19 名が参加した本例会は盛況のうちに終了いたしました。